



シオンの丘

開かれた教会 仕え捧げる教会

2016年5月29日発行

第170号

日本聖公会奈良基督教会

〒630-8213 奈良市登大路町45

TEL:0742(22)3818

FAX:0742(23)6774

http://www.nskk.org/kyoto/nara/

発行人 井田 泉

マルティン・ルター ——宗教改革五〇〇年の前の年に——

司祭 三八 井田泉

ルターは一四八三年、ドイツのザクセン地方、アイスレーベンという所に生まれました。父の強い期待を背負って大学に学び、法律家となることを目指していました。ところが重大な転機が訪れます。故郷から大学のあるエルフルトに戻る途中、激しい雷雨に遭いました。雷鳴とともに稲妻が走り、彼は地面に転倒しました。死の恐怖の中で彼は思わず、「聖アンナ様、お助けください。私は修道士になります」と叫んだそうです。

彼は法律家への道を捨て、両親の反対を振り切って修道院（アウグスティヌス修道会）に入ってしまった。二二か二三歳でした。修道会に入った彼は、司祭からラテン語の旧新約聖書を渡されました。このときから彼の熱心な聖書との取り組みが始まりました。

修道院に入ったルターは、熱心に修道生活を続けて行きました。しかし熱心に勤めを励み、自らを律して生きようとすればするほど、

かえって恐ろしい苦しみが起こってききました。それは、自分がどんなに努力しても、神の前に正しくあり得ない、という不安でした。「神の義」という聖書の言葉が彼を苦しめました。神は義の神、正義の神であって、少しでも間違ったところがあれば自分は断罪される。そういう恐怖が彼から離れませんでした。ついに彼は、罪人を罰する「義の神」を愛せないどころか、憎みさえした、と言われま

す。

しかし彼は聖書、とりわけ旧約聖書の詩編と新約聖書のローマの信徒への手紙に取り組みながら、まったく違う理解に到達するので

す。

救いは、自分の行いや努力によって得られるのではない。救いは、神の恵みによって、イエス・キリストという神からの贈り物として与えられるのだ。神の義というのは、人間が正しい者ではないにもかかわらず、イエス・キリストの

十字架をおして、神が私たちに与えてくださるものだ。私たちは神によって無条件に愛され、受け入れられている——一言で言って、「神の義の発見」「福音の発見」が起こったのです。このような聖書のまったく新しい理解が、宗教改革の土台となっていきます。

ルターは礼拝のあり方を大きく変えました。それまでの礼拝、いわゆるミサはラテン語で唱えられ、聖書もラテン語で読まれて、一般の人は内容を理解することができませんでした。そこでルターが行った大きな事業のひとつは、聖書ドイツ語訳です。ルター訳聖書を読んでいる、驚いたことがあります。それは「救う」という言葉を、*selig machen*（ゼーリヒマッヘン）至福にする、最高に幸せにする）と訳していることです。日本語で「救う」と訳されている言葉が、「幸せにする」と訳されていることの中に、ルターのあの苦しみの格闘を経ての福音の発見の喜びが込められてる気がしてなりません。